

# 建築鉄骨構造技術支援協会「鉄骨技術フォーラム2017」

## ー鉄骨造建築物の構造設計・部材製作等における疑問に答えるー

### 開催の趣旨

今回のフォーラムでは、これまで好評だったフォーラムの第3弾として、角形鋼管を用いた中小規模鉄骨造建築物を主な対象として、主に構造設計、鉄骨部材製作、現場施工等における疑問点を会員各位からのご質問に答える形で当協会の関係者が回答し、それらについて更に会場での討議を進めることを考えております。

以下にそのような質問の例を示します。

フォーラムの詳細は下記の通りです。鉄骨構造物に関係のある多くの方々の参加を希望しております。

(一社) 建築鉄骨構造技術支援協会 理事長 田中淳夫

- 日 時** 平成 29 年 10 月 13 日 (金) 13:30~17:00 (受付開始 13:00 から)
- 場 所** 東京電機大学千住校舎 1 号館 (東京都足立区千住旭町 5 番 ※北千住駅東口から徒歩 1 分)
- 参加費** 会員 6,000 円、非会員 8,000 円 (全青会会員は当協会会員として扱います)  
(※当初金額から値下げしました)
- 定 員** 先着 100 名

### プログラム

#### 1. 理事長挨拶

#### 2. 鉄骨造建築物の設計・部材製作・現場施工等における疑問に答える。

回答者 青木博文、稲田達夫、内田三雄、田中淳夫、護 雅典  
質問の例を以下に示します。今後とも8月31日まで質問は受け付けます。下記連絡先にお寄せください。

- 鉄骨製作途中での変更が多い。図面対応と製作対応の必要な工期がとれないことがある。どのように対応すればよいのか。
- 工作図の図面承認が当初の予定通り進まず、鉄骨製作の時間確保が困難となった場合、やむを得ず承認前に製作に着手した。万一設計変更があると大きな損害に繋がる。このような問題を打開する方法はないのか。
- ガセットプレートやスプライスプレートの鋼種に、「母材と同等とする」と記載がある。異種鋼材同士の取合いの場合、どちらがこの「母材」となるのか。
- 大梁端部、XY方向の梁成が100mmや150mmの差の場合、片方の梁端をハンチに変更する時、その下フランジのハンチ勾配に何かの基準があるのか。
- コラムのシームをグラインダーにて切削してはいけないと設計事務所から指示を受けた。コラムのシームをグラインダーで切削する事はNGなのか。
- 折版受け・段差のデッキプレート受け・嵩上げ材など溶接部で全線溶接では溶接の熱影響で曲がりが出る。タッパ溶接に変更した場合その標準的ピッチはあるのか。
- 構造設計が必要以上に完全溶込み溶接の箇所がある。部分溶込み、隅肉溶接に変更可能な箇所の提案をしても、設計どおりの回答が来ってしまう。どうしたらよいのか。
- 合成床板でないデッキプレートの溶接で、ショートビードとの指摘をされることがある。また、小梁上でのスポット溶接(焼き抜き)もショートビードになるのか。
- 現在、高力ボルトは摩擦接合および引張接合のみを規定しており、支圧接合は対象とされていない。本当に高力ボルトを支圧接合に使えないのか。
- 幅 300mm のフランジに対する H T B は千鳥配置になるが、第一孔(端部から最初のボルト孔)を内側とするように要求された。根拠について教えてほしい。
- 軽量形鋼構造物の H T B 接合は、摩擦接合となるのか。厚さが 2.3 mm でも摩擦接合面の処理が必要か。
- アンカーボルト位置の精度が悪く、やむを得ずベースプレートの孔を長孔修正した場合、孔の補強方法に基準はあるのか。
- 胴縁、母屋、デッキプレート裏などの二次部材の防錆塗装は、構造物材と同様にしなければいけないのか。
- 防錆塗装の膜厚検査の時期は、塗装面が半硬化状態でよいのか。

鉄骨技術フォーラム 2017 参加申込書 FAX 045-441-1196 ※お一人ずつお申し込み下さい。平成 29 年 月 日

ふりがな		ふりがな		会 員 <input type="checkbox"/>
氏 名		会社名		非会員 <input type="checkbox"/>
会社住所		電 話		
		F A X		

本申込書をFAXのうえ、下記口座に参加費をお振り込みください。

みずほ銀行 横浜駅前支店 普通預金 口座番号 2427243

口座名：一般社団法人 建築鉄骨構造技術支援協会 シヤ)ケンチクテツソツコウゾウギジュツシエンキヨウカイ

連絡先 建築鉄骨構造技術支援協会事務局

東京都中央区日本橋茅場町 2-2-2 三恵ビル 5F Tel 03-5843-6489 e-mail : info@sasst.jp